

ふれあい手帳(シール)の手引き

やさしさをかたちに

児童・生徒のボランティア活動のきっかけづくりに
ふれあい手帳を作りませんか？



2003年3月



財団法人 さわやか福祉財団

1. ふれあい手帳について

○ふれあい手帳って何ですか？

- 児童・生徒のボランティア活動のきっかけをつくるもので、活動60回分のシールを貼ることと記録をすることができます。

○その効果は？

- 児童・生徒が「何か良いことをやってみよう」とするきっかけや励みになります。大人と児童・生徒、児童・生徒同士のふれあいや会話のきっかけとなり、世代を越えて活動の共有化が図れ、コミュニケーション能力が育ちます。
- 児童・生徒の活動(行為)を認め、ほめることで、自己肯定感を持てるようになります。
- 活動を記録することで、次の活動への継続が図れます。

2. ふれあい手帳の仕組み(例示)

<活動母体の範囲>

- 学校(小学校・中学校・高等学校)単位で、クラス・学年単位で、

学校の規模・地域の特性に応じて

- ① 学校全体で
- ② クラスごとに
- ③ 学年単位で
- ④ 委員会で
- ⑤ 部活動等

} 取り組めます。

- 中学校区単位で

中学校区内の中学校(そこに進学する何校かの小学校も含む)が学校の枠を越えて取り組むこともできます。

小学校は中学校の、中学校は小学校の特性を理解し、中学生にリーダーシップを持たせて一緒に活動を展開するのも良いでしょう。

- 地域の多様な団体(PTA・子ども会・塾・地域のスポーツクラブ・ボランティア団体・その他団体等)で、取り組むことができます。

<運営のスタイル>

- 学校運営型(教師主導型、児童会・生徒会自主運営型等)
 - 地域運営型(PTA・子ども会・青少年健全育成委員会・塾・地域のスポーツクラブ・ボランティア団体・NPO法人等)
- 配布… 上記、いずれも全員に配布、または希望者に配布します。

<シールの取り扱い>

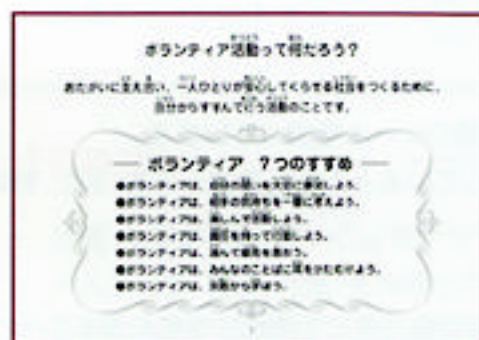
- 財団では、楽しく活動を行ってもらうために3種類のシールを使っています。
それぞれが異なるポイント(点数や時間)を表しているともみなして使っても、また、特に意味づけをせず自由に使っても構いません。
- シールの貼り方を決めます。
学校… 校長や教頭、担任が貼ってあげたり、地域の協力者に定期的に学校に来てもらって貼ってもらったり、児童・生徒に自分で貼らせることなどが考えられます。
地域… 公民館・児童館・図書館・郵便局・商店・児童館や民生委員宅・「子ども110番の家」(緊急時に児童・生徒が駆け込める家)などにおいてもらうことが考えられます。
この場合、児童・生徒の安全を確保できる場所に置くことが大切でしょう。
家庭… 児童・生徒自身が貼ったり、保護者が貼ることが考えられます。

3. 活用のポイント

- ①担当責任者を置き、活動を行う児童・生徒は勿論、活動を支える側の大人(学校の教職員・保護者・地域の人たち)に活動の意義を知らせ、共通理解を図り、協力体制を取ることが大切です。特に学校現場では、実施する教師の意識の差によってクラスごとの場合など大きく児童・生徒の活動に差が出てきます。この活動に対する十分な校内での意志の疎通を図ってください。
- ②児童・生徒が手帳を受け取ったらすぐに活動の第一歩が踏み出せるように様々な活動の場を学校や地域で提供しましょう。環境美化、高齢者福祉施設訪問など、すぐに取り組めることを準備しておきましょう。活動内容がゴミ拾いやあいさつばかりであったとしても、60回継続できたことをまずほめてください。中学生は、小学生と異なり、活動内容に対する考え方のレベルが高くなるので、状況に応じて達成目標を30回から10回程度に押えることも考えてください。
- ③児童・生徒の意欲を持続させるために、活動期間中は定期的に周囲の大人(教師や保護者・地域の大人)が手帳を話題にして励ましの言葉かけをしましょう。ボランティア月間や週間を設け、活動にメリハリをつけることもよいでしょう。
- ④活動の成果を発表する場を設けたり、表彰する機会を持つことは、次の活動への意欲につながります。独自の様々な工夫を考案してみてください。

4. ふれあい手帳の構成と解説

p1 「ボランティア7つのすすめ」



ふれあいボランティアの基本的な考え方を分かり易く、7つにまとめてあります。

ボランティア活動は＜自主性＞＜自発性＞が大切ですが、最低限守らなければならないこともあります。

そこで、活動を始める前に子どもたちとボランティア活動について話し合う時の参考にしてください。

p2 「ふれあいシールでハートをいっぱいにしてよう」



それぞれの学校や地域・団体で、テーマや合い言葉を考えて記入します。

例えば

- ・ゴミのないきれいなまち
- ・花がいつも咲いているまち
- ・笑顔がいっぱいのまち
- ・お年寄りや身体の不自由な人にやさしいまち

など

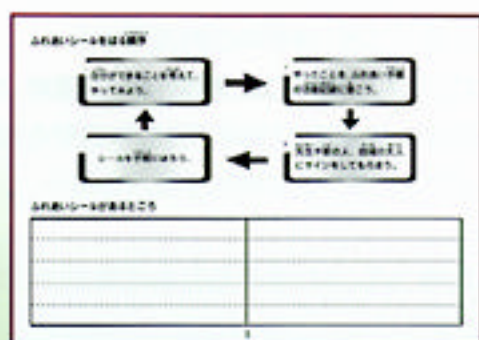
p3 「シールを貼る順序」「ふれあいシールがあるところ」

児童・生徒が活動を記録したふれあい手帳を持って来たら、それを見た大人(教師・保護者・地域の人など)に活動記録欄にサインをしてもらいます。

その後シールを持っている教師や保護者・地域の人に申し出てシールをもらいます。(但し、本人がシールを持っている場合は自分で貼ります。)

サインやシールを貼る時には、ほめて励ますことが大切です。協力者には事前をお願いしておきましょう。

「ふれあいシールがあるところ」は、シールが置いてある具体的な場所(持っている人)を書きます。



活動の事例をイラストで表しました。この中にはボランティア活動とは言えないようなものも含まれていますが、まずできることから始めることが大切です。

できたことが自信につながり、もっと活動しようという意欲も湧いてきます。
楽しく活動できる雰囲気を作ってあげることが大切です。

まちにやさしく
人にやさしく

イラスト：福岡一紀



(例) こもむらった。



(例) 華花の世話をした。



(例) 牛乳パックやトレーを集めた。



(例) 自転車を整備した。



(例) 道をそうじした。



(例) かべのらくまきを消した。

4



(例) 近所の人にあいさつをした。



(例) バスや電車で席をゆずった。



(例) 重い物を手伝った。



(例) 車イスの人の手伝いをした。



(例) 小さい子のめんどうを見た。



(例) おしいちゃんやおばあちゃんの
かたたきをした。

◦この(例)の他にもいろんな活動があるよ。自分で考えてやってみよう！
◦まちには、ボランティア活動をやっている人たちがたくさんいるよ。探してみよう！

5

p 6～8 シールを貼る欄です。



<シールの取扱い>と同じ

この手帳では、ハートマークに60個シールを貼ることができます。小学校、特に低中学年などでは、いきなり60個を目指させるというのではなく、まず5個を達成させ、次に10個を達成させるといった工夫をするとうまいでしょう。最終目標は、各学年のレベルで検討してみてください。

p 9～18 「活動記録」

活動日 (月/日/年)	活動内容	記録
月/日/年		
月/日/年		
月/日/年		
月/日/年		
月/日/年		
月/日/年		
月/日/年		

この手帳には60回分の活動記録欄とサイン欄があります。

いつどこでどんな活動をしたかをその都度忘れないように記録するよう、声かけをしてください。

活動するたびにずっと身につけて、その場でサインをもらったり、シールを貼ったりしなければいけないということはありません。

活動したことを日記のように思い出しながら後で書いてもいいし、サインも後からもらっても構いません。

p 19 「連絡先」

氏名	連絡先

活動を通じて知り合った人の連絡先を書いてもらいます。

活動をきっかけにふれあいの輪を広げましょう。

活動期間を記入します。

活動期間は基本的に学校、団体で自由に決定します。
児童・生徒のペースを大切にして期間を決めてください。

このページは、ふれあいボランティア活動を自己評価するページです。

できるだけ大人の方に一言を書き加えてもらい、ほめたり、励ましたりしてもらうことが大切です。

児童・生徒が書いた「気づいたことや次にやってみたいこと」を読むと児童・生徒の成長の様子が分かったり、また今後の活動の課題が浮き彫りになってきたりします。

これらを教師や大人が確認・評価して、次のステップへつなげてください。

ふれあいボランティア活動記録

いつまで、どこで、何をしましたか？ 記録してください。

- いつからいつまで？ 年 月 日から 年 月 日まで
- しーるの場 敷い
- この活動をやってみてどうでしたか？ 日時をつけてみましょう。

日	時	分	時	分
2014	2014	2014	2014	2014
- この活動で気づいたことや学んだことを書きましょう。
また、この場や場としたら、どんなことをしてみたいですか？

気づいたこと

次にやってみたいこと

5 .ふれあい手帳を活用した学校の状況(平成14年度「実施状況調査」より)

①どのような活動の中で活用しているか

「学校教育の中で」使用しているケースが多い。

②主にどのような場面で使ったか

- 総合的な学習の時間、児童会・生徒会活動、学活(HR)活動、その他(休み時間、道徳、放課後、家庭など)
- 同和教育月間等で活用
- 学校が福祉教育推進校の指定を受け学習を継続、その時の教材として活用
- 地域・家庭での活動を指導

③手帳を使っでの活動の良かった点

- 身近なことから始められた。
- 地域に帰ってからも駅周辺の掃除をしたりして、活動の幅が広がった。
- シールやサインをもらうことに喜びを感じて、すすんで家の仕事を手伝うようになった。
- シールを貼ることで自分のやったことが確認できるのがよかった。
- サインという形で「明らかに他の人に認められるということ」が次への活動につながっていた。
- 人とかかわりの楽しさを知った。
- ボランティアの意義づけにはよかった。
- 交流の手がかりとなる(家庭も含め、この手帳がコミュニケーション成立のきっかけとなって行く)。
- シールを貼り、ふやすことで意欲がでてきた。
- 励みになり、実施したことを記録に残すことができた。
- 福祉的な活動に目を向けるきっかけには良い試みだと思う。
- ボランティアに対する意識が高まった。
- 色々な活動に参加する生徒がふえた。

④手帳を使うにあたって工夫すべき点

A. 点検がなかなか出来ないのが実状だった。

(対応策例) 学校での点検がし易いように点検のシステムを検討する。例えば、点検する教師をふやしたり、ボランティア部や委員会等と連携する地域の団体等に定期的に協力してもらう(学校にきてもらい、児童・生徒の手帳のシール貼りや記録の確認をしてもらう)など。

B. 保護者・地域の協力は得られ易いので、もっと 家庭への呼びかけを工夫すればよかった。地域全体での推進のため、目的など広める努力が難しい。町全体で取組み、PTA以外の方にも手帳の存在を知って欲しい。

(対応策例) 家庭への呼びかけ方を工夫(保護者会で説明をする。学校・学級新聞等に常に実施状況を報告するなど)したり、町内会長など世話役を通じて回覧板に掲載して、回してもらったり、掲示板に貼ってもらったりして広報活動を行う。

C. この手帳だけで進めて行くことには限界がある。

(対応策例) 活動回数の区切り(例えば5回、10回など)に小さい賞状をあげたり、手帳が一冊終わった児童・生徒には大きな賞状をあげたり、集会の時に、その活動をほめたりして、工夫を試みる。

D. 学校の教育活動の中で年間を通じて行っていくのは難しい。

(対応策例) 活動期間を短く区切り、メリハリをつけることで、継続的に取り組んでみる。
例えば、ボランティア月間やボランティア週間などの期間を設けてメリハリをつける工夫が考えられる。

E. シールは小学生には関心を惹くと思うが、中学生には今一歩か。

(対応策例) 特に中学生には、活動の記録をすることで、自分の活動の反省や点検ができるということを話してみる。シールが必要なければ、記録だけを実施させる。活動回数も十分に検討して決定する。(6.さらなる展開を—の項のような工夫を考えてみる。)

<ふれあい手帳作成費用の調達>

各学校、地域の団体などが、予算で独自にオリジナルのふれあい手帳を作ることができれば良いのですが、予算がなくて作れない場合、教育委員会・地域の企業や商店会・ライオンズクラブ・ロータリークラブ・PTA・子ども会などに積極的に働きかけて協力を依頼し、ふれあい手帳を作ることも可能です。その場合、協力先の名前を手帳に掲載し、紹介して感謝の気持ちを表しましょう。

<地域のボランティア活動について知りたい時>

各自治体または、社会福祉協議会には、ボランティアセンターやボランティアコーナーというセクションがあり、そちらでボランティア活動の紹介をしています。児童・生徒が活動内容がわからないときは、各自治体または社会福祉協議会・ボランティアセンター等に問い合わせるようアドバイスしましょう。

<ボランティア保険加入のすすめ>

学校管理下以外でのふれあいボランティア活動を児童・生徒が行う際は、ボランティア保険に加入してもらうことをお勧めします。各自治体の社会福祉協議会またはボランティアセンターで受け付けています。

6. さらなる展開を

さわやか福祉財団では、これまでのふれあい手帳で得たノウハウをもとにして、ふれあいボランティアパスポートという新たな展開に進んでいます。この事業は、企業との協働による取り組みです。さわやか福祉財団が企画・運営を行い、企業からは資金的な支援をいただいています。(表紙裏に支援企業名を記載しています。)



○ふれあいボランティアパスポートの特徴

ふれあいボランティアパスポートは、ふれあい手帳と同様、ハートマークにシールを貼るところは、全く変わりません。シール貼布欄及び記録欄が30回になっているだけです。

ふれあい手帳では、児童・生徒がシールをすべて貼り終えた時、達成感を味わえるようにする工夫を学校や地域の団体に独自に考えてもらっていました。しかし、このパスポートでは、企業と連携することで、パスポートの作成費用を負担してもらおうとともに、児童・生徒がシールを貼り終えた時に、マッチングギフトとして1冊につき一定額の寄付をしてもらうようにしました。集まったパスポートの冊数に対応した金額を、社会貢献活動として環境ボランティア団体(平成14年度)に寄付をしてもらうようにしたのです。

つまり、児童・生徒はパスポートを完了して達成感を味わうとともに、自分の活動が更に社会貢献活動になるということで、パスポートを続ける意義を児童・生徒自らが見出せるようにしたのが特徴と言えるでしょう。

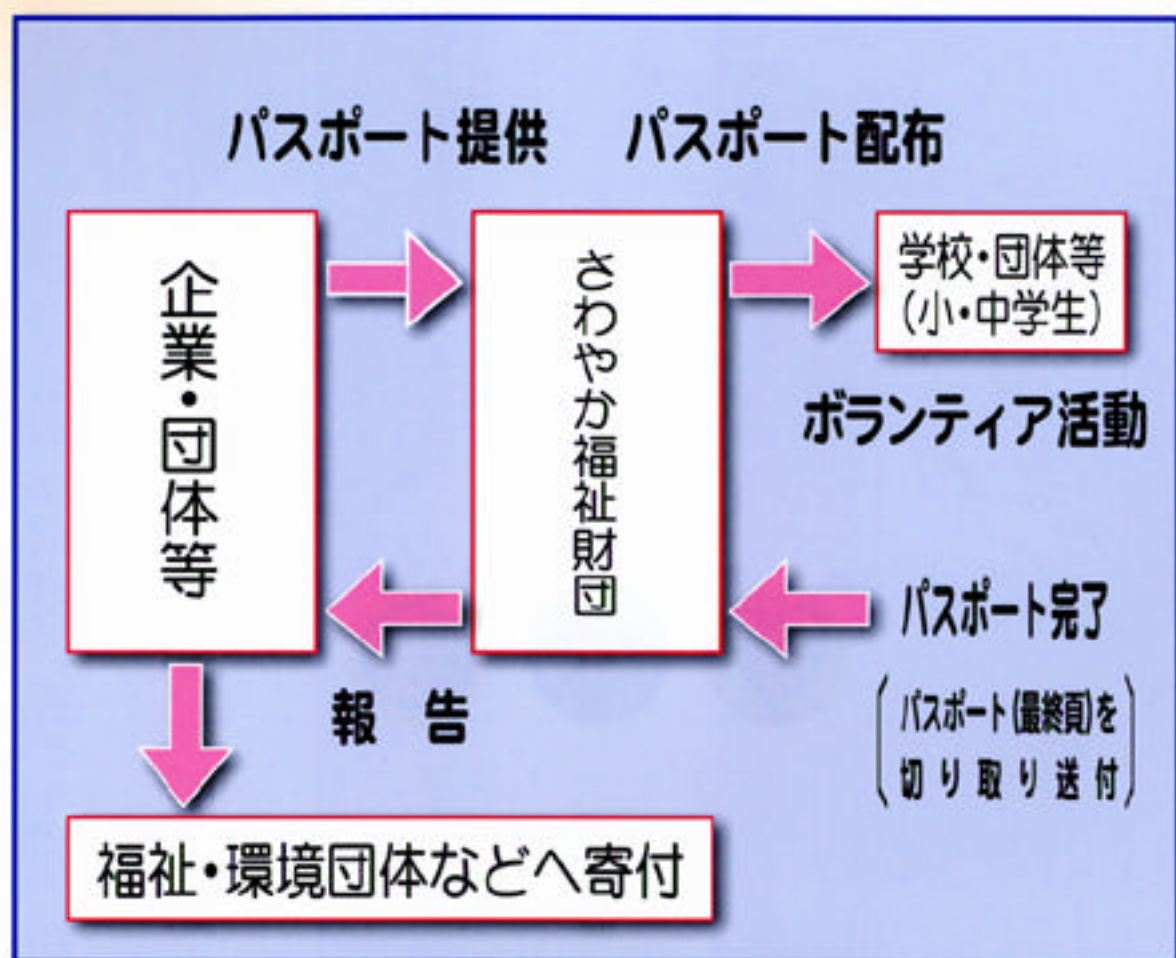
※マッチングギフト

これまで、いくつかの企業が実施している社内制度で、ボランティア活動をしている社員を企業が応援するために、社員がボランティア活動をしている施設や団体に社員自身が寄付をした場合、その寄付金額と同じ金額の寄付をその施設や団体に企業が寄付するというもの。

このふれあいボランティアパスポートは、形式的にはマッチングギフトの要素を取り入れています。児童・生徒には寄付の代わりにボランティア活動をしてもらうわけではありません。あくまでも、児童・生徒にはボランティア活動をしてもらうことが目的です。寄付は、パスポートを達成したということに対する企業からの応援の寄付なのです。

ふれあいボランティアパスポートのマッチングギフトの金額は企業と相談し、寄付先については児童・生徒が寄付したい身近な福祉施設や団体に寄付をしたり、児童・生徒と同年代の苦境にある世界の子どものための支援を行ったりと、自由な発想で児童・生徒の意欲につながるような寄付先を協議して決定するのが良いでしょう。

●● しゅくみ ●●



※パスポートの最終頁は、児童・生徒が活動の感想を書く頁です。

ふれあい手帳同様、大人の見聞も書けるようになっています。この頁は、ミシン目で切り取れるようになっています。

<さらなる新しいふれあい手帳を>

ふれあい手帳は、さわやか福祉財団のオリジナルですが、児童・生徒のボランティア活動を応援するさまざまなふれあい手帳が各地で開発されることを期待しています。

ふれあい手帳以外にも、各地に生徒手帳に記録するものとか、ボランティア手帳など、類似のものがあります。ぜひ、全国に児童・生徒のボランティア活動を広めるために、積極的な活用をしていただきたいと思います。また、さわやか福祉財団のふれあい手帳は、そのまま使っていただいても、参考にさせていただいてもかまいません。さらなる新しいふれあい手帳が、各地で作られることを期待しています。また、当財団への情報提供もお待ちしています。



ふれあい手帳(シール)の手引き -やさしさをかたちに-

社会福祉・医療事業団子育支援基金助成事業

2003年3月

【発行・問い合わせ先】



財団法人さわやか福祉財団 教育担当

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館4F

電話/03(5470)7751 FAX/03(5470)7755

URL <http://www.sawayakazaidan.or.jp>